

《創世記 3章1節～7節》

◆ 読んで・聴いて 思い巡らそう

【 私のためのメモ 】

○心に届いたみ言葉

○気づき

○誰かに伝えてあげたいこと

○教会に示されたこと

○この時代への呼びかけ

○「悔い改め」

○イエスさまのお姿が見えた来た箇所

◆ 聖書味読 翻訳の違い

◆ 日常語訳 リビンバイブル

創世記 3章1節～7節

- 1 さて、主なる神が造ったものの中で、蛇が最も賢い動物でした。蛇は女に、ことは巧みに話を持ちかけました。「ほんとうにそのとおりなんですかね？ ほかでもない、園の果実はどれも食べてはいけないという話ですよ。神様は、これっぽっちも食べてはならないと言ったっていうじゃないですか。」
- 2-3 「そんなことないわ。食べるのは少しもかまわないのよ。ただね、園の中央にある木の実だけは、食べてはいけないの。そればかりか、さわってもいけないんですって。さもないと死んでしまうって、神様はおっしゃったわ。」
- 4 「ほおーっ。でも、それはうそっぱちですよ。死ぬだなんて、でたらめもいいところだ。
- 5 神様はわかっているんです。その実を食べたら、善と悪の見分けがついて神様のようにになってしまうってことを。」
- 6 言われてみれば、そう思えないこともありません。それに、その実はとてもきれいで、おいしそうなのです。「あれを食べたら何でもよくわかるようになるんだわ。」女はそう思いながら見ていると、もう我慢できなくなり、とうとう実をもいで食べてしまいました。そばにいたアダムにも分け与えたので、彼もいっしょに食べました。
- 7 はっと気がつくのと、なんと、二人とも裸ではありませんか。急に恥ずかしくなって、とっさにいちじくの葉をつなぎ合わせ、腰の回りを覆いました。

◆70人訳(ギリシア語)

創世記 3章1節～7節

- 1 アダムとその妻の二人は裸だったが、恥じ入ることはなかった。主・神がつくった地上の獣の中では、蛇がもっとも賢かった。蛇は女に言った。「神はなぜ、園にあるどの木からも（取って）食べてはならぬと言ったのだ？」
- 2 女は蛇に答えた。「わたしたちは園の果実を食べてもかまわないのです。
- 3 でも、園の中央にある木の果実については『それを食べるな。それに触れるな。死を招くといけないから』と、神に言われました。」
- 4 蛇は女に言った。「決してしぬことはない。
- 5 おまえたちの目はそれを食べる日に開かれ、善悪を知って神々のようになることを、神は承知しておられるからだ。」
- 6 女はその木（の果実）が食べるによく、目には見るに好ましく、観察するに美しいことを知った。そこで女はその果実を取ると、口にした。女は一緒にいた彼女の夫にも与えたので、彼も食べた。
- 7 すると二人の目が開かれた。彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで彼らはいちじくの葉をつなぎ合わせ、自分たちのために腰に巻くものをつくった。

◆創世記 3章4節～5節の比較

- 口語 4へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。5それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」。

- 2017 4すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。5それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」

- 70人 4蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。5おまえたちの目はそれを食べる日に開かれ、善悪を知って神々のようになることを、神は承知しておられるからだ。」

- 岩波 4蛇は妻に言った、「決して死ぬことはないよ。5実はね、あなたがそれを食べる日、あなたがたの目を開いて、あなたがたが神のように善悪を知るようになる、と神は知っておいでなんですよ」。

- LB 4「へえーっ、でも、そいつは嘘っぱちですぜ。死ぬだなんて、でたらめもいいところだ。5神様も意地が悪いね。その実を食べたら、善と悪の見わけが付き、神様のようになっちまうもんだから、脅しをかけるなんてさ。」

◆ み言葉を生き み言葉を伝えるために

- ① 創世記1章29節で神が人間に認められていたことを確認しておこう。

- ② 音も無く登場する「蛇」。今、実際に蛇が現れて、私たちに語りかけることはない、「蛇」の存在とは、どういうものなのだろう。

- ③ 蛇の賢さ
70 人訳注では、ヘブライ語原文は「ずる賢かった」が直訳と指摘。

- ④ 「蛇」の語りかけた言葉は、1節後半と4節だけだ。蛇は私たちの心の中に居るのではないか？

- ⑤ 誘惑はどのようにして訪れるのだろうか

⑥ 「原罪」という言葉がある

今橋朗先生はこう言う。

創世記3章は、罪について最初に、そして、根本的に語っている大切な箇所です。いわゆる「原罪」といわれる、人間の根底にある狂いを描きだしています。

※日本語での「原罪」

■ スーパー大辞林 3.0

【原罪】キリスト教で、人類の祖が犯した最初の罪のこと。蛇にそそのかされたイブとともにアダムが神にそむいて禁断の木の実を食べたことが旧約聖書創世記に記されている。アダムの子孫である人間は生まれながらに罪を負うとされる。

■ 明鏡国語辞典 第二版

【原罪】キリスト教で、アダムとイブが神に背いて禁断の木の実を口にしたという人類最初の罪。すべての人間は生まれながらにしてその罪を背負うとされる。◇旧約聖書『創世記』による。

■ 新明解国語辞典 第八版

【原罪】〔キリスト教で〕人類の祖アダムとイブとが禁断の木(コ)の実を食べた結果、人間が生まれながら負わされているという罪。

⑦ 「男と女」

3章の罪の物語は、このアダムとエバという名ではなく、ただ、男と女として記されている。

⑧ エデンの園の木に関連して、「神が約束されていたこと」はなんであったのか？

⑨ 6節 「女」は果実を「食べた」。人は誘惑によってどんな状態に陥ったのだろうか。

⑩ 女がしたことは何だったか。彼女は夫にも与えた。それはなぜだろう。

⑪ 7節 二人の目が開かれて見えるようになって知ったことは何か？

以上